

# 2026 年度 一般入学試験 問題

## 国語

(2月14日)

開始時刻 午後1時00分

終了時刻 午後2時00分

### 注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この冊子は17ページです。落丁、乱丁、印刷の不鮮明及び解答用紙の汚れなどがあった場合には申し出てください。
3. 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督員の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしてください。

#### ① 受験番号欄

受験番号を記入し、さらにその下のマーク欄にマークしてください。正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。

#### ② 氏名欄

氏名とフリガナを記入してください。

4. 解答は解答用紙の解答欄にマークしてください。例えば、

|    |
|----|
| 10 |
|----|

 と表示のある問いに対して◎と解答する場合は、次の(例)のように解答番号10の解答欄の◎にマークしてください。

(例)

|    |     |     |     |     |     |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 10 | (a) | (b) | (c) | (d) | (e) |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|

5. 問題冊子の余白等は適宜利用してもかまいません。
6. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。





次の文章を読んで、問一～八に答えなさい。

『窓ぎわのトットちゃん』が空前のヒットとなった一九八一（昭和五六）年に、書籍売り上げにおいて年間ベストセラーの第二位につけたのは、田中康夫著の小説『なんとなく、クリスタル』（河出書房新社、一九八一年）であった。<sup>\*</sup>（中略）

いささか唐突に思われたかもしれないが、本章をまずこの話題から書き起こしたことは理由がある。一見したところ、まったく異質なジャンルの読み物ながら、『窓ぎわのトットちゃん』と『なんとなく、クリスタル』という二つの作品が同じ年にベストセラーとなったことは、画一性の時代からの離脱という一点において、じつは奥深いところで通底する出来事であったように思われるからである。一方は新教育的な文脈において、そして他方は消費社会論的な意味合いでもって、いずれも共に「個性化」時代の幕開けを、ねじれた形で象徴していたのではなかっただろうか。（中略）

<sup>\*</sup> 同書の刊行当時、その筋立て以上に話題を集めたのは、本文中に登場する東京都内の地名や大学名、ファッションブランド、アーティスト、レストラン、聞き慣れないカタカナ語に対して、一つひとつ著者の独自の視点からそれらを解説した註<sup>ちゅう</sup>が添えられていたことである。その数は全部で四四二個にも及んでおり、その総体はあたかも、当時における都市生活ガイドのような様相を<sup>ア</sup>テイしていた。同じ頃、『anan』（一九七〇年創刊）や『non-no』（一九七一年創刊）といった女性誌や、『宝島』（一九七三年創刊）、『ポパイ』（一九七六年創刊）、『ブルータス』（一九八〇年創刊）といった若者向けのサブカルチャー誌が売り上げを伸ばしており、これらの出版物によって広く<sup>イ</sup>シントウし始めていた商品カタログ文化と、それはきわめて親和的なものを含んでいたと言える。つまり同書の全体を通して表出されていたのは、<sup>ウ</sup>ボンヨウさを忌避し、趣味の良さをひたすら追求しようとする消費社会<sup>A</sup>の感性であった。そしてこうした感性は、後述する通り、消費活動を通じた人々の差異化の欲望と結びつくことによって「個性」の自己演出を帰結するものだったと言える。（中略）

<sup>\*</sup> ここでいう消費社会とは、産業の高度化に伴い、生産活動よりも人々の消費行動によってもたらされる構造的特質が顕著化した段階の社会状況を表現した概念であるが、そのことに関する代表的な議論といえば、いうまでもなくジャン・ボードリヤール『消費社会の神話と構造』（Baudrillard 1970）である。【①】

ボードリヤールの議論の要諦は、つまるところ差異をめぐる人々の欲望についての解析学である。高度大衆消費段階に到達した社会では、消費を通じて欲望が解き放たれ、産業の独占的集中のもとで現実的差異が消失してゆくがゆえにこそ、かえって差異の崇拝<sup>B</sup>が起<sup>おこ</sup>るのだという。一定程度にまで進化した画一化、均質化のいわば【X】として、スタイルや地位を表示するためのわずかな差異が、人々の追求すべき欲望の対象として浮上し始めるのである。【②】

そしてこの文脈において、ここでいう「差異」は、そのまま「個性」へと置き換え可能であることは言うまでもない。ボードリヤールに言わせると、「個性化」に向けた努力は、個性喪失の時代の個性再創造の企てにほかならない。そして、そうした感性に対して強く訴えかけてくるのが、

Y の数々である。【③】

たとえばメルセデス・ベントンは、消費者に向けて七六色六九七種類の内装を用意して、「個性的な好みと欲望をきつと満足させられるにちがいありません」と謳いあげる。そしてヘアカラーの広告は、「自分の個性を発見してそれを発揮すること、それは本当に自分だけの楽しみを発見することです」と、髪の色を少しだけ変えることで「今までよりずっと本当の私に」なることを提案してくるのである。【④】

しかしながら彼のみるところ、このように「個性化された」ナルシズムはまったくもって矛盾に満ちている。自分自身で選んだ理想を追求しているつもりであつたとしても、ここで「本当の自分」を実現しようとする営みは、結局のところ、集団の命令に対して最も忠実に従っているにすぎず、「押し付けられた」モデルに最も接近していることにはかならないからである。「消費社会における個人のナルシズムは独自性の享受ではなくて、集団的特性の屈折した姿である。とはいえ、それは「最小限界差異」を通じて、常に自分自身への自己陶醉的熱中のかたちで現れる」(Baudrillard 訳書二〇一五、一四五頁)【⑤】

このようなボードリヤールの議論に従うなら、「個性的であること」が価値となり、人々がこぞつてその追求を図ろうとする事態は、消費社会下における差異崇拜の現れということになるだろう。我々は前章において、臨教審答申の中に「個性重視の原則」が打ち出された経過について確認したが、その動きは他方では、消費社会化の進展に呼応する事態でもあつたわけである。

一九八〇年代の日本社会は、たんに教育界のみならず、そもそもが社会全体的なレベルにおいて「個性」が召喚される条件が整いつつあつたと言える。実際のところ、臨教審における「自由化」論自体、学校教育をその利用者＝消費者に対する「サービス」として見立てる観点を内包するものであつたから、なるほどそのスタンスは「消費社会的」だつたとも言える。学校が提供するサービスが商品であるのだとすると、消費者にとつてそれは「選べる」ものであるべきだし、また「選ばれる」存在であるためには、それぞれの学校の「個性化」が図られなければならない、という論理がそこには伏在していたのだつた。

はたしてこのような「消費社会」という切り口だけでもつて、この時期の状況が十全に説明し尽くせるものであるかどうかかわからないが、ともあれ画一性を嫌悪し、差異をこそ価値あるものとして追求する空気が、社会全体的な規模で充満していたことはたしかだろう。そして「個性」をめぐる語りは、まさしくそうした社会的要請に適合するようなかたちで機能していたと言える。

ここでは、このような個性言説の機能を指して「差異化のレトリック」と呼ぶことにしたい。一九八〇～九〇年代を中心とする二度目の個性ブーム

は、ひとえにこの「差異化のレトリック」が前景化していった局面として理解していくことができるはずである。

(河野誠哉『個性幻想』による。設問の関係上、本文を改めたところに\*を付した。)

(注) 臨教審——教育改革を目的に設置された内閣総理大臣直属の諮問機関で、正式名称は臨時教育審議会。

問一 傍線部ア～ウの漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の(a)～(e)のうちから一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、アが

1、イが 2、ウが 3。

ア テイし

- (a) コウテイ的な意見
- (b) ニッテイを調整する
- (c) テイサイを整える
- (d) 企画をテイアンする
- (e) 花束のゾウテイ

イ シントウ

- (a) 技術のシンポ
- (b) 不法シンニユウ
- (c) シンスイ被害にあう
- (d) 地域のシンコウ
- (e) シンユウとの再会

ウ ボンヨウさ

- (a) 本のハンレイを読む
- (b) ハンザツな事務
- (c) 批判にハンロンする
- (d) ハンアイ主義
- (e) 無料でハンブする

問二 傍線部A「消費社会の感性」についての説明として最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答

番号は 4。

- (a) 若者向けのサブカルチャー誌では都市の文化が発信されており、これに全国民が惹きつけられるという性質。
- (b) 画一性からの離脱を志向し、地方から東京へという人の流れを促進する人間の本源的な欲求。
- (c) 都市生活ガイドや商品カタログのように消費者の欲求を刺激し、無難な趣味が何かを考えさせる機能。
- (d) 一般的な生活スタイルを敬遠し、独特の嗜好を求めたいと願う消費者の心持ち。
- (e) 消費活動には際限がなく、特定の趣味をもつていてもなお新商品を得たいと思う願望。

問三 傍線部B「差異の崇拜が起こる」理由として最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は

5。

- (a) 人間にとつては他者と異なることに生存上の小さくない意味があると考えられているため。
- (b) 同質性の高い集団においては、差異をアピールすることそのものを目的とした消費行動が生じるため。
- (c) 人々の外見に現実的な差異が見られなくなった段階では、差異が生じることを願うことしかできないため。
- (d) 産業が発展し人々の消費活動が促進された結果、消費行動でしか満足感を得ることができなくなったため。
- (e) ボードリヤールの分析にみられるように、高度大衆消費段階においては人々の欲望を解析することが可能となったため。

問四 空欄 X に入る語として最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 6。

- (a) 拒否反応
- (b) 等価交換
- (c) 代替品
- (d) 反作用
- (e) 副産物

問五 空欄

Y

に入る言葉として最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。 解答番号は

7

。

- (a) 公開されることのない企業努力
- (b) 一部の人のみが欲する商品
- (c) 商品の宣伝文句
- (d) これまでにない機能
- (e) 社会生活に必須のアイテム

問六

傍線部C「まったくもって矛盾に満ちている」のはなぜか、ボードリヤールの考えに沿って述べられているものとして最も適切なものを、次の

- (a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。 解答番号は

8

。

- (a) 個性を求めて流行りの商品を購入することが、自ら主体的に個性を消失させる行動となっているため。
- (b) 企業は消費者に個性を獲得させることをねらっているが、結果的に固定化されたモデルへと近づいてしまったため。
- (c) 自分らしさを追求する行為には、他者との関係性のなかでしか個性が実現しないという前提が存在しているため。
- (d) 個性を求める消費活動により個性を獲得できたとしても、結果的にはサービスを提供する側のみが潤うという構造があるため。
- (e) 集団の命令に従うことができる消費者のみが、個性を獲得することができるという関係性にあるため。

問七 次の文は、本文の【①】～【⑤】のどこに入るか。最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 9。

以下、「個性」論としての観点から、あらためて彼の所論について振り返っておくことにしよう。

- (a) ①  
(b) ②  
(c) ③  
(d) ④  
(e) ⑤

問八 傍線部D「「個性」をめぐる語り」についての説明として最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 10。

- (a) 本文で紹介されていた二作品には個性重視の価値観が前面に押し出されており、これが人々の意識の変革に影響を与えた。  
(b) 個性をめぐる議論は世界的に行われており、日本では戦後の変革期において消費社会化したことにより個性追求が加速している。  
(c) 日本においては個性的であることが推奨されない時代が長かったが、ある時期からその方針を国レベルで転換してきている。  
(d) 個性という実態がない存在を人々に押し付けることにより、社会全体を平板化させようとしていた時代である。  
(e) 個性追求を推奨する機運は社会全体に及んでおり、これが当時の社会的要請と関係していると筆者はみている。

次の文章を読んで、問一―七に答えなさい。

精神科医になって五年が過ぎ、六年目にはいった頃でした。この時期は、精神科医として多少の自信をつける半面、自分の未熟さにまだ道遠しと思う、相反する気持ちに揺れ動く頃です。要するに、精神科医の仕事そのものと、その根底にある精神医学の限界に気づき始めた時期だったのです。＊そんな折、眼に飛び込んだのが、「共感に向けて。不思議さの活用」という表題を持つ論文でした。何だこれは、と思いました。〈共感〉(empathy) は分かります。精神科医になりたての頃から、これは嫌というほど教えられ、実際に患者さんと接する中での重要性も痛感させられます。簡単に言えば、「相手を思いやる心」です。

とはいえ、これが漠然としていて、かつ奥が深く、体得するにも一筋縄ではいかないのです。

その「共感」と「不思議さ」を結びつけた論文ですから、驚きつつ立ったまま頁をめくり本文を読み始めました。著者など、どうせ知らない名前なので、眼中にありません。医学論文にはまずボウトウに要約があります。それはこうなっていました。

——人はどのようにして、他の人の内なる体験に接近し始められるだろうか。共感を持った探索をするには、探求者が結論を棚上げする創造的な能力を持つていなければならない。現象学や精神分析の創始者たちは、問題を締めくくらない手順、つまり新しい可能性に対して心を開き続けるやり方を、容易にする方法を発展させた。加えて、フッサールの現象学的還元と、フロイトの自由連想という基本公式は、芸術的な観察の本質を明示したキーツの記述と、際立った類似性を有している。体験の核心に迫ろうとするキーツの探求は、想像を通じて共感に至る道を照らしてくれる。

フッサールとフロイトなら、共感について考える際、当然引用されるかもしれない。

X

詩人のキーツがどうしてここに出てくるのか。

不思議に思っ読進めていく先に、「ネガティブ・ケイパビリティ」の記述があったのです。

今では有名になった兄弟宛の手紙の中で、キーツはシェイクスピアが「ネガティブ・ケイパビリティ」を有していたと書いている。「それは事実や理由をせつかに求めず、不確かさや不思議さ、懐疑の中にいられる能力」である。

能力と言え、通常は何かを成し遂げる能力を意味しています。しかしここでは、何かを処理して問題解決をする能力ではなく、そういうことをしない能力が推賞されているのです。しかもその能力を、かのシェイクスピアが持っていたというのですから、聞き捨てなりません。<sup>A</sup>さらに読んでいくと、キーツが詩人について語った部分も引用されていました。

詩人はあらゆる存在の中で、最も非詩的である。というのも詩人はアイデンティティを持たないからだ。詩人は常にアイデンティティを求めながらも至らず、代わりに何か他の物体を満たす。神のショウドウの産物である太陽や月、海、男と女などは詩的であり、変えられない属性を持っている。ところが、詩人は何も持たない。アイデンティティがない。確かに、神のあらゆる創造物の中で最も詩的でない。

Y

 というものがないのだ。

ここに至って、キーツの真意がようやく読み取れた気がしました。アイデンティティを持たない詩人は、それを必死に模索する中で、物事の本質に到達するのです。その宙吊り状態を支える力こそがネガティブ・ケイパビリティのようなのです。キーツはネガティブ・ケイパビリティの権化としてシェイクスピアを引き合いに出しています。しかし本当は、詩人こそネガティブ・ケイパビリティを身につけるべきだと説いているのです。

不確かさの中で事態や情況を持ちこたえ、不思議さや疑問の中にいる能力——。しかもこれが、対象の本質に深く迫る方法であり、相手が人間なら、相手を本当に思いやる共感に至る手立てだと、論文の著者は結論していました。

著者の所属は、ハーヴァード大学医学部精神科となっていました。しかし著者がどういう人物かは知らず、三十年経った今でも分かりません。キーツのネガティブ・ケイパビリティを知ってからは、著者のことなどどうでもよくなったのです。\*

医学論文はそれまでも多数読んでいましたし、その後も現在まで数えきれないほど読んでいます。しかし、この論文ほど心揺さぶられた論考は、古稀に至った今日までありません。このときショウゲキをもって学んだネガティブ・ケイパビリティという言葉が、その後もずっと私を支え続けています。難局に直面するたび、この能力が頭をかすめました。この言葉を思い起こすたびに、逃げ出さずにその場に居続けられたのです。その意味では、私を救ってくれた命の恩人のような言葉です。

〈問題〉を性急に措定せず、<sup>C</sup> 生半可な意味づけや知識でもって、未解決の問題にせっかちに帳尻を合わせず、宙ぶらりんの状態を持ちこたえるのがネガティブ・ケイパビリティだとしても、実践するのは容易ではありません。

なぜならヒトの脳には、後述するように、「分かつ」とする生物としての方向性が備わっているからです。さまざまな社会的状況や自然現象、病

気や苦悩に、私たちがいろいろな意味づけをして「理解」し、「分かった」つもりになろうとするのも、そうした脳の傾向が下地になっています。目の前に、わけの分からないもの、不可思議なもの、嫌なものが放置されていると、脳は落ちつかず、及び腰になります。そうした困惑状態を回避しようとして、脳は当面している事象に、とりあえず意味づけをし、何とか「分かつ」とします。世の中でノウハウもの、ハウツーものが歓迎されるのは、そのためです。

「分かる」ための窮極の形がマニュアル化です。マニュアルがあれば、その場に展開する事象は「分かった」ものとして片づけられ、対処法も定まります。ヒトの脳が悩まなくてもすむように、マニュアルは考案されていると言えます。

(帚木蓬生『ネガティブ・ケイパビリティ 答えのない事態に耐える力』による。設問の関係上、本文を改めたところに\*を付した。)

問一 傍線部ア、イの漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の(a)～(e)のうちから一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、アが

11、イが 12。

ア ポウトウ

- (a) 通信をポウガイする
- (b) ポウリヨクをふるう
- (c) 仕事にポウサツされる
- (d) 世界をポウケンする物語
- (e) 気体がポウチヨウする

イ ショウゲキ

- (a) 平和のためのカンショウ地帯
- (b) 生まれつきのショウブン
- (c) 権力をショウアクする
- (d) ショウサイな報告
- (e) コウショウな趣味

問二 空欄 X に入る接続詞として最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 13。

- (a) しかし
- (b) だから
- (c) および
- (d) さらに
- (e) つまり

問三 傍線部A「かのシェイクスピアが持っていたというのですから、聞き捨てなりません」という表現から読みとれることとして最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 14。

- ① シェイクスピアほどの天才でも、ネガティブ・ケイバビリティに頼っていたという事実、いらだたしさを感じている。
- ② 論文の中に、有名な文学者であるシェイクスピアの名前が出てきたことで、論文を肯定的に読もうという意欲が高まっている。
- ③ シェイクスピアという偉大な文学者の名前を出すことによって、自分の考えが正しいことを間接的に証明しようとしている。
- ④ 高名な文学者であるシェイクスピアが、ネガティブ・ケイバビリティを持っていたという主張に驚きをもって読み進めようとしている。
- ⑤ 誰でも知っているシェイクスピアを引き合いに出すことによって、読者にとって親しみやすい主張であることを理解させたいと思っている。

問四 空欄 Y に入る言葉として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 15。

- ① 能力
- ② 意識
- ③ 詩心
- ④ 探求
- ⑤ 自己

問五 傍線部B「キーツの真意」を説明したものとして最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 16。

- ① キーツは、詩を書くにあたって、アイデンティティなど無用であり、むしろ持つべきではないという考えに到達していたという主張。
- ② アイデンティティを持たないとされてきた詩人は、今こそしっかりとしたアイデンティティを確立するべきだという主張。
- ③ 何の解決策も生み出さないシェイクスピアの文学が受け入れられているのだから、詩人はシェイクスピアの能力を模倣するべきだという主張。
- ④ 不確かさや不思議さ、疑いの中に留まる能力を身につけるべきなのは、対象の本質に迫らなくてはならない詩人にはかならないという主張。
- ⑤ ネガティブ・ケイバビリティを持つシェイクスピアを出して、詩人こそネガティブ・ケイバビリティを有する唯一の存在だという主張。

問六 傍線部C「指定せず」のこの文脈における意味として最も適切なものを、次のa～eのうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解

答番号は 17。

- Ⓐ 解決しないで
- Ⓑ 理解しないで
- Ⓒ 取り上げないで
- Ⓓ 回避しないで
- Ⓔ 考慮しないで

問七 本文で言う、ネガティブ・ケイパビリティの難しさを説明したものとして最も適切なものを、次のa～eのうちから一つ選び、解答欄の記号を

マークしなさい。解答番号は 18。

- Ⓐ ネガティブ・ケイパビリティは、文学の教養がない人にとって到達しがたく見過ごされやすい概念である。
- Ⓑ ネガティブ・ケイパビリティは、文学者に共通して見られる能力だが、どの文学者でも持っているような能力ではない。
- Ⓒ ネガティブ・ケイパビリティは、人間の脳の傾向に反する能力であるため、実行することが簡単でない。
- Ⓓ ネガティブ・ケイパビリティは、世間が認める積極的な問題解決能力とバランスを取ることが困難な力である。
- Ⓔ ネガティブ・ケイパビリティは、マニュアルに即して問題を解決するために覚えなければならないことが多い。

メ      モ

試験問題は次に続く。

三

次の文章を読んで、問一～七に答えなさい。

短歌のルールは五七五七七であること。これだけだ。このフォーマットだけは過去、現在、そしておそらく未来を含めて、全ての歌人に共通する。この五七五七七は文字数ではなく、音数で数える。例えば、木下龍也（きのしたたつや）は七音、月刊（げっかん）は四音、新潮社（しんちょうしゃ）は五音である。小さい文字のなかで「っ」だけはそれ単体で一音として数え、その他は「ちょ」「しゃ」で一音となる。伸ばし棒と呼ばれる長音（ー）も一音として数えるので、チョコレートは五音だ。声に出したり、指を折りながら数えるとわかりやすいかもしれない。

\*  
(中略)

それよりもっと大事なことがある。

W

でつくることだ。詳しく説明する。僕が短歌をつくる過程をわかりやすく分けると、心の内側・頭

の内側にある感情や風景を↓言葉にして（言語化・文章化）↓五七五七七にする（短歌化）、という流れになる。心の内側・頭の内側にある感情や風景を外に出す、表現するための道具のひとつが言葉だ。けれど言葉は、その感情や風景を余すところなくすべてすくいとれるわけではない。言葉にせず、テレパシーのように誰かへ伝えられたらいいのだが、そうはいかないから必ずとりこぼしが生まれる。感情や風景を言葉にした時点で、内から外に出した時点で、そこには差が生じるのだ。

思い返してみてほしい。悲しいという言葉はすごく便利だが、自分の内側にある感情をすべては伝えられないはずだ。そして、それをさらに短歌にするとなると、三十一音という制約があるため、削らなければならない部分、言い換えなければならない部分が生まれるから、もっと差が広がる

【①】。

でも、本当に伝えたいのは、心の内側・頭の内側にある感情や風景なのだ。

X

それゆえに、いつもの話し言葉でつくってなるべく詳細との差を少なくする、ということを意識しておいてほしい。当たり前なことのように思えて、これが結構重要で、初めて短歌をつくる人の多くがここでつまずく。

なぜかという、百人一首や教科書で習った短歌のイメージに引つ張られて、いつもの話し言葉でつくることができなくなるからだ。歴史や文法の勉強としては大切だが、それを<sup>ア</sup>ショテから自分の表現に取り込もうとすると、完成した短歌が自分の内側にある詳細とはほど遠いものになってしまうはずだ【②】。

もうひとつ引つ張られがちなイメージは標語である。短歌に親しみがなくても、短歌よりは目にするであろう七五調。僕も小学生や中学生の頃にくったような気がするが、短歌と標語は別物である。例えば、「消費税 未来永劫 助け合い」「安全が 素敵な未来 連れてくる」。これらは綺麗

に五七五だが、普段こんなふうにかくかくした感じで話さない。けれどいざ短歌を作ろうとすると、なぜか助詞を抜いたり、五七五七七をぶつ切りにして考えてしまう。ちなみに Y な場合を除いて、全角空けを「五 七 五 七 七」のように置かなくていい。例として、百人一首、教科書、標語を出したが、意識してほしいのは、短歌ってこうだね、七五調ってこうだねという既存のイメージ、あるいは、カッコいい言葉や美しい言葉を使わなければならないのではないかというイメージに捉われず、いつも通りに書いてみることだ【③】。

さて、ここまで読んで、短歌って難しいじゃないかとあなたは思ったかもしれない。そう、短歌は難しいのだ。簡単だと書いておきたいところだが、短歌を始めて十三年経った今の僕にとっても短歌は難しい。それはきつと、言葉を五七五七七に収めるということが不自然だからだと思う。普段の僕は五七五七七で喋<sup>しゃべ</sup>ったりしていないし、五七五七七でメールを書いたりもしない。五七五七七は歌人である僕にとっても決して自然ではない。また、心の内側・頭の内側にある感情や風景を言葉にするだけでも時間がかかるのに、それを五七五七七にするとなるともっと時間がかかる。僕が納得のいく短歌を完成させるまでは最低でもおよそ三時間だ。短歌は不自然で遅いのだ【④】。

だからこそ、それゆえの Z があると僕は思っている。不自然ということは、通常ではないモードで自分や自分の言葉を見つめ直すことができるということだ。そして、短歌の遅さはそのまま自分や自分の言葉と向き合う時間になる。何かを体感したときには、言葉にしたときには、気付かなかった感情や風景に気付くことができる。短歌をつくりながら、本当に必要なことだけを残していく過程で、本質が見えたり、あのときこう思っていたんだ、こういうふうに見えていたんだと書きながら気付いていくことが僕もよくある。それが辛い記憶であれば、情報を整理し、短歌という形で保存することで、作品として手放<sup>イ</sup>すことができる。カチュウから抜け出して、辛い記憶を俯瞰<sup>ふかん</sup>できるようになる。それはもしかしたら自己治癒と呼べるのかもしれない。さらには、それが誰かの手に渡って、誰かの心を動かすことがあるし、たまたま誰かの救いになったりする。自分を癒し、他者も癒すことができればこんないいことはない。濁流のようなこの時代において、きつと短歌は必要なものなのだ【⑤】。

（木下龍也「いつか短歌をつくる日に」による。本文を改めたところに\*を付した。）

問一 傍線部ア・イの漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の(a)～(e)のうちからそれぞれ一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号

は、アが 19、イが 20。

|                      |                |            |           |           |           |             |         |               |              |
|----------------------|----------------|------------|-----------|-----------|-----------|-------------|---------|---------------|--------------|
| ア                    |                |            |           |           | イ         |             |         |               |              |
| シヨテ                  |                |            |           |           | カチュウ      |             |         |               |              |
| (a)                  | (b)            | (c)        | (d)       | (e)       | (a)       | (b)         | (c)     | (d)           | (e)          |
| 薬のシヨ方箋 <sup>せん</sup> | 恩師にシヨチュウミマイを出す | 契約書にシヨメイする | 事件のシヨドウ捜査 | 裁判所のシヨキカン | 法案がカケツされる | 物理学のカセツを立てる | センカを逃れる | 創立五十周年のカセツを刻む | いよいよシンカが問われる |

問二 文中の空欄 W に入る語句を、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 21。

- (a) いつもの言葉  
(b) 専門的な言葉  
(c) テレパシーのような言葉  
(d) かつこいい言葉  
(e) 標語のような言葉

問三 次の文は、本文の【①】～【⑤】のどこに入るか。次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 22。

(短歌に慣れてきたらもちろんそういったものを参考にしてもいい)

- |     |     |     |     |     |
|-----|-----|-----|-----|-----|
| (a) | (b) | (c) | (d) | (e) |
| 【①】 | 【②】 | 【③】 | 【④】 | 【⑤】 |

問四 文中の空欄部 X には、①～④の各文がはいる。正しい順に並べるとすれば、どれが最も適切か。次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄

の記号をマークしなさい。解答番号は 23。

- ① だから、ふたつの矢印を経る上で生まれる差はなるべく小さくしたい。
- ② あなた以外の誰もあなたと同じように詳細を知らないということは、つまり、あなたにしかつけない短歌があるということだ。
- ③ 心の内側・頭の内側にある感情や風景の詳細は、あなた以外の誰も、あなたのように知らないからだ。
- ④ それこそ短歌として残しておいてほしいのに、である。

- |     |     |     |     |     |
|-----|-----|-----|-----|-----|
| (a) | (b) | (c) | (d) | (e) |
| ③   | ②   | ①   | ③   | ①   |
| ↓   | ↓   | ↓   | ↓   | ↓   |
| ④   | ③   | ③   | ①   | ②   |
| ↓   | ↓   | ↓   | ↓   | ↓   |
| ①   | ①   | ④   | ②   | ③   |
| ↓   | ↓   | ↓   | ↓   | ↓   |
| ②   | ④   | ②   | ④   | ④   |

問五 文中の空欄 Y に入る語を、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 24。

- ① 印象的
- ② 叙情的
- ③ 論理的
- ④ 文法的
- ⑤ 効果的

問六 文中の空欄 Z に入る語を、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 25。

- ① テクニック
- ② レトリック
- ③ ロジック
- ④ メリット
- ⑤ デメリット

問七 傍線部について、「自己治癒と呼べる」のはなぜか。その理由として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 26。

- ① 短歌を作ることが精神的に良い効果をもたらすから。
- ② 作歌の過程で言葉を真剣に選ぶことが辛い記憶を忘れさせるから。
- ③ 短歌の美しい言葉に感動することで、悲しみを忘れることが出来るから。
- ④ 短歌を詠むことで、自分の体験を客観的に眺めることができるから。
- ⑤ 自分の詠んだ短歌が他の誰かの救いになるから。







